

2023年3月25、26日

2022年度卒業式 式辞

早稲田大学 総長

田中 愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

本来であれば、卒業生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたかったのですが、コロナウイルスの感染を防ぐため、卒業生だけに出席していただいています。たいへん残念ですし、申し訳ないと感じています。そうしたなか、皆さんがこのコロナ・パンデミックのもとで、無事に勉学を修めて卒業することを、私たち教職員はたいへん誇らしく、嬉しく思っています。

この1年間は、日本中が沸いたスポーツの出来事がありました。つい数日前に終わった WBC (World Baseball Classic) や、昨年秋のサッカーのワールドカップでの、日本チームの活躍に、私たちは大いに元気づけられました。その中で、注目すべきことは、野球の日本代表で中心となって活躍した選手が大谷、ダルビッシュ、吉田、ヌートバーらアメリカのメジャーリーグでプレイしている選手だったということと、サッカーの日本代表チームの26人のうち、18人はサッカーの本場のヨーロッパでプレイしている選手だったということです。即ち、世界で対等に競い合っていくには、その世界に住んで、本物の競争力を肌で知るほうがずっと効果的である、ということです。皆さんも、卒業後に是非とも、機会を見つけて留学するなり、海外で仕事をするなりして、他の世界でご自分を鍛えてもらいたいと思います。同時に私たち早稲田も国際的な頭脳循環を、今まで以上に活発に行っていかななくてはと思っています。

さて、今年の卒業生は、特別な思いを持って、卒業されることと思います。この3年間、皆さんは、新型コロナウイルス感染症というパンデミックに振り回されてきました。振り返ってみれば、皆さんは大学2年生になった時から、ずっと十分な学生生活を享受することが出来なかったと思います。しかし、早稲田の学生の皆さんは、よく我慢をして、今日まで学内での大規模クラスターを発生させずに頑張ってくれました。皆さんのご協力に心から感謝いたします。

皆さんのなかには、最も充実すべき最後の3年間が失われた、という感覚をお持ちの方もおられるでしょう。しかし、コロナ・パンデミックの経験をネガティブに捉えず、この辛い経験が役に立つときがある、と信じて進んでいただきたいと思います。皆さんは、若い学生時代に辛いことを経験したのですから、他の世代より一層強く逞しくなっていると思います。

皆さんが逞しくなっている、と感じた事例を挙げましょう。早稲田祭は、2020年度はオンラインで配信し、2021年度はオンラインと対面のハイブリッドで実施できました。2022年度は対面で早稲田祭を皆さんは実施しました。そのように頑張っただけで本来の学生生活を取り戻そうと努力した皆さんを、本当に誇らしく思い、心から敬意を表します。それだけ、皆さんは逞しくなったのです。

今、私は「遅くなる」という言葉を使いました。実は、私が4年半前、2018年11月に総長に就任してから提唱してきた理念が、「たくましい知性」を鍛えること、ならびに「しなやかな感性」を育むことなのです。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解と証明されているものはありません。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、地球上の至る所に存在する貧困と格差の解決法も、また現在まで1年以上も続いているロシア政府指導者によるウクライナへの侵略と人権侵害を止める解決策も、どれをとっても正解を見つけにくい大きな問題です。

皆さんが社会に出て向き合う問題の多くは、このように正解が教科書や専門書に記されていない場合が多いと思います。ウクライナの人々への人権侵害やコロナ・パンデミックなど、いま私が例に挙げた、人類全体が直面している問題ほどには大きくはないとしても、皆さんが今後人生で向き合う問題には正解のないものばかりでしょう。そのような未知の問題に果敢に挑戦して、自分の頭で自分なりの解決策を考え出す力、これを私は「たくましい知性」と呼んでいます。

皆さんは早稲田で、「たくましい知性」を育み、「自分の頭で考える」ことを身につけたと思います。「自分の頭で考える」ためには、やはり学問が重要なのです。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。もちろん、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に挑戦する際には、早稲田で修めた学問が座標軸となり、今後の人生の道標（みちしるべ）となっていくはずなのです。

もう一つ大切なことは、「しなやかな感性」を育むことです。すなわち、異なる国籍・エスニシティ・言語・宗教・文化・信条・性別・性的指向性を持つ人々に対して、敬意をもって接することです。そうした利他の精神を身につけることで、「しなやかな感性」は涵養されます。とくにコロナ・パンデミックでは、国や民族の違い、あるいは経済的な格差により、弱い立場の人々がいっそう苦しむことになったと思います。そのことを肌で感じる経験をした皆さんは、より一層「しなやかな感性」を育むことができたと思います。

皆さんは、昨年ウクライナで起きていることを目の当たりにして、どのように感じているのでしょうか。このような状況でこそ、「しなやかな感性」が大切であると思います。ウクライナから早稲田に留学してきている学生たちは、今どんなに心細い気持ちでいるのでしょうか。同時に、ロシアから早稲田に留学してきている学生たちは、今どんな思いで祖国を見つめているのでしょうか。また自分たちロシア人が他国の人々からどう見られているかに不安を感じているのでしょうか。それぞれの立場に置かれた人々のことを思いやって接していけることが、「しなやかな感性」を持つことの大切さです。

私は、ウクライナの人々が受けてきている人権侵害や殺戮を思うと、言葉に表せないほどの義憤と悲しみが湧いてきます。私自身は、政治学を研究してきましたので、なぜこんな理不尽なことが起き続けているのか、なぜウクライナへの侵略を直ちに止められないのか、その理由がある程度、推測できます。それだけに、私たち人類にとって、この悲惨な状況を止めるための有効な

手段がそれほど多くはないという歯がゆさを感じています。また、私自身がこの侵略を止めることに直接に貢献できていない無念さも痛感しています。

そうした中で、私が教育者の1人としてできることは、皆さんに早稲田で学んだことを心に刻み、卒業後の人生を歩んで欲しい、とお願いすることです。早稲田大学の創立者である大隈重信は、建学の精神として、「学問の独立」「学問の活用」と共に、「模範国民の造就」の大切さを説いています。「模範国民の造就」について大隈は、「一身、一家、一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」と述べ、利他の精神の大切さを強調しています。この寛容の精神に照らせば、人権侵害をしたり、弱者を痛めつけたり、他者を陥れるようなことは、早稲田大学の建学の精神に反することになります。

すなわち、早稲田で学んだ者は、誰1人、人の道に外れたことをしない、人として行ってはいけないことをしない人間になっていただきたい、ということです。そのことを、卒業生の皆さんは、私たち教職員とともに、崇高な建学の精神をもつ早稲田大学という学問の府で学んできたはずです。このことは忘れないでください。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。3年前、2020年の4月、緊急事態宣言が発出された直後に、早稲田大学は、経済的に困窮している学生に、1人当たり10万円の緊急支援金を支給しました。そのとき、早稲田の卒業生たちは（本学では「校友」と呼んでいますが）、「後輩たちが困っているなら、是非とも助けたい」と、学生への緊急支援のご寄付に積極的に応えてくれました。寄付金額は、最初の10日間で1億円を超え、合計で10億円を超えたのです。私は、早稲田の校友を改めて誇らしく思いました。皆さんも、このことを忘れずに、卒業した後、早稲田の後輩を応援してあげてください。

皆さんは、早稲田で学んだことに自信を持ち、コロナ・パンデミックの中で苦しい学生生活をやりきったことを誇りとして、今後の人生を切り開いてください。

卒業後も、時々母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English.

You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、本日は、ご卒業、本当におめでとう！